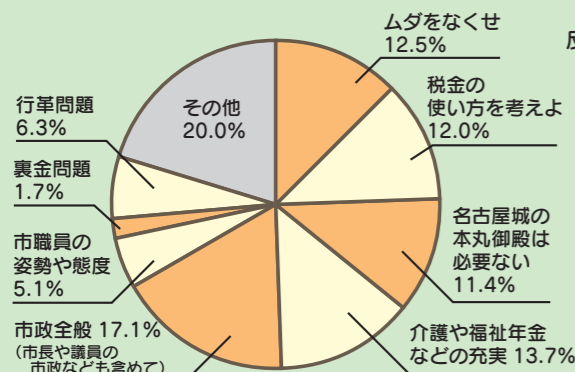
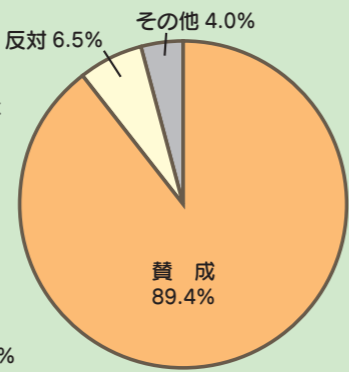


市民のみなさん、貴重なご意見ありがとうございました。

名古屋市政についての意見



私たちの提案についてご意見は



私たちは、昨年9月に「アンケート付き市民ピラ」を12万枚配布をしました。そのうち330通を超える返書がありました。市政については、税金の使われ方に強い関心が寄せられています。私たちの提案については、9割近い方の賛同をえています。

アンケートに寄せられた声

バリアフリー並びに高齢化対策に力を入れ、日本で一番の福祉・高齢化モデル都市を作してほしい。

本当に必要な、生活基準に対して予算を使ってほしい。

ゴミ収集は市がすべき、民間では金もうけのため、何がおこるかわからないし不安だ。市はもっと責任を持ってほしい。

名古屋城本丸御殿など必要ないと思います。高齢者が暮らしやすくしてほしいです。

国民健康保険料が倍近くなり39,000円だった介護保険料が65,000円台になりました。何の説明もなく、頭から(年金から)引かれて、びっくり、怒りです。

プラスチックのゴミが本当に多いです。便利でもあるが製造した企業の負担で処理すべきと思う。消費者や税金で処理するのはおかしい。

ごみの収集は、市の職員にお願いしたい。災害の時などにも頼りになると思います。

もっと勉強をしなければいけないと思う。ドイツなどの国を参考に、ダイオキシンのことも、もっと勉強しなければいけない。子供たちのために。

直営でごみ収集をしてやはり東海豪雨の時は助かりました。

民間委託で地震などの災害時に本当に大丈夫でしょうか？

私たち環境局で働くものは、阪神淡路大震災、能登・中越地震、東海豪雨では、車両の特殊性と日ごろの仕事のノウハウを生かし、災害ごみの処理を機敏に行ってきました。被災した多くの自治体は、ごみ処理がほとんど民間委託されており、災害ごみの処理や周辺地域のノウハウもない中、右往左往しているもとても、名古屋市職員は、その先頭に立って、災害ごみの処理を速やかに対応してきました。

東海地震にも備えて対応する必要があります。



自治労連・名古屋市職員労働組合環境局支部
TEL 052-882-9164 FAX 052-881-9160
〒466-0059 名古屋市昭和区福江2-10-12

私たちは、16区のごみの収集、運搬、処理、処分、環境保全をしている名古屋市の職員の労働組合です。

市民のみなさん、 いっしょにすすめましょう

■企業がごみを作らないように、製造元への規制（拡大生産者責任）を法制化させましょう。（ドイツなどでは法律化されています）

拡大生産者とは

生産者が、生産した製品をただ売るまでだけでなく、それらが廃棄された後の処理まで負う責任のこと。循環型社会形成推進基本法により生産者の責任として規定された。

- 包装容器などをリサイクルしやすい材料に統一化させましょう。
- 燃やすごみ、埋め立てごみをできるだけ減らしましょう。
- ごみの収集、処理、処分は、「もうけ優先」の民間ではなく、市職員による収集を基本にすすめましょう。

今、私たちが 努力していること

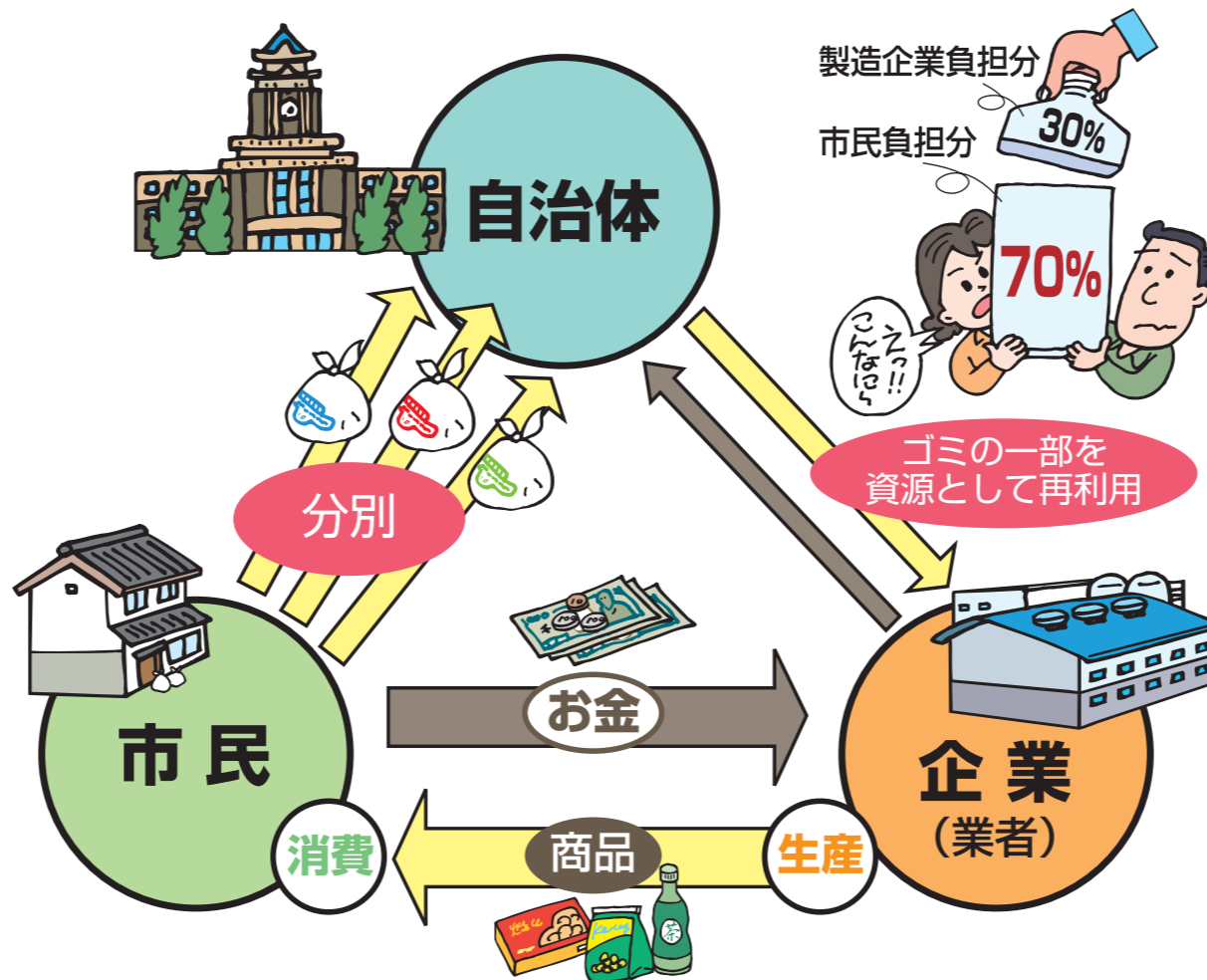
- ごみに出された雑誌や段ボールを資源にまわす。
- マナーが守られていない（分別がキッチンとされていない）ごみ袋を事業所で、職員が分別しています。
- 清掃工場では、排ガス中のダイオキシン類を、国の基準より大幅に減少させています。
- 徒歩収集の実施（昨年10月より）
（収集車の後部に乗って収集する方法は、事故の危険もあり廃止する）
歩いて収集することで、散乱ごみの収集や市民のみなさんとの対話も始めています。

名古屋市がすすめていること

名古屋市は、「行財政集中計画」というもとに、使用料の値上げや市民会館、スポーツセンターなど市民の貴重な財産を民間へゆだねています。また、保育園の民営化や市民病院の統廃合、ごみ処理事業の一部民間委託が市民や職員の合意なくすすめられています。

その一方で、世界のトヨタへ補助金をつぎ込み、名古屋城本丸御殿、徳山ダムなどハコモノ行政をいまだに続けています。

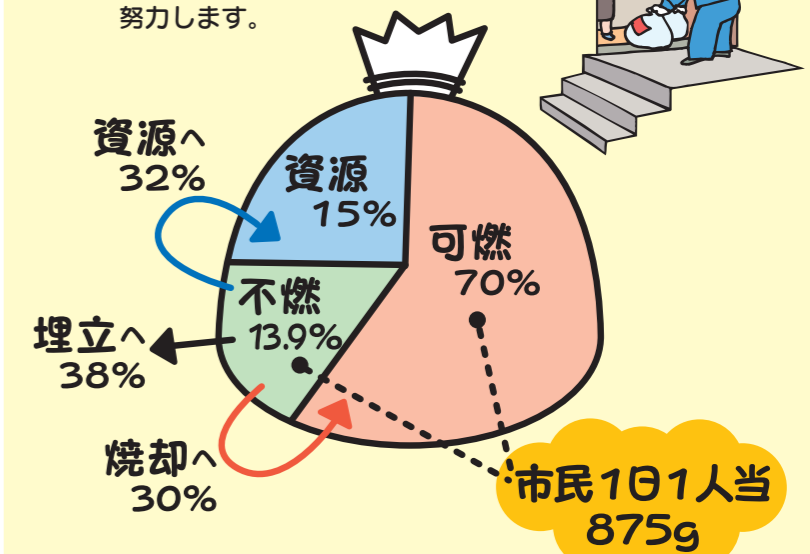
企業責任をあいまいにせず！ ～きれいな町、住みよい街名古屋に～



※企業（業者）は生産して得るお金から資源回収で払うお金を支払うがその額は少ない。作っては儲け、回収しては儲けのサイクルになっている。

なごやか収集の充実をはかりましょう

- （家庭ごみや資源を、所定の場所まで持ち出すことが困難な高齢者や障害者の単身世帯などに対して、「ごみ出しの支援をはかるため」玄関まで収集に行く方法）より充実させるために、障害者との対話をすすめ、充実させるよう努力します。



藤前干潟を守った力を生かしましょう

1990年代は、ごみ・環境問題が深刻な事態にあり、名古屋市は、ごみ処理を大型工場（新南陽）建設と最終処分地として、野鳥のえさ場である藤前干潟を埋め立て地の候補としてあげました。私たちは、資源の分別収集、埋め立て技術の改善など市職員の知恵を発揮し、市民のみなさんとともに、藤前干潟を守ってきました。今では、ラムサール条約にも登録され自然環境を守り続けています。



自然環境を守るためには、ごみの減量と資源化が必要です